

特別寄稿

National Institutes of Health Library



(NIH Library:米国国立衛生研究所図書館)

井畑 淳

みなさん、こんにちは。私は、7月からアメリカ FDA (食品医薬品局) の中にある CBER という研究部門で働いています。CBER は研究が主なので、FDA のビルではなく NIH (国立衛生研究所) の敷地内に間借りしています。NIH 自体は広大な敷地内にビルが散立している大学のようなところです。今回は NIH にある図書館について書いてみたいと思います。

NIH の図書館はビルディング 10 という NIH の敷地内で最も大きな建物の中にあります (図 1)。この建物には NIH の病院が入っているため、白衣を着た人達をたくさん見かけます。



図1 ビルディング10

ビルディング 10 の正面の入り口を入ると警備員がいて、NIH の ID (図 2) が無い場合には手荷物のチェック、身分証明などが必要になり

ます。絵の飾ってある廊下を進むと図書館の入り口があります (図 3)。ドアを開けて入るとゲートがあり、その奥にカウンターがあります (図 4)。

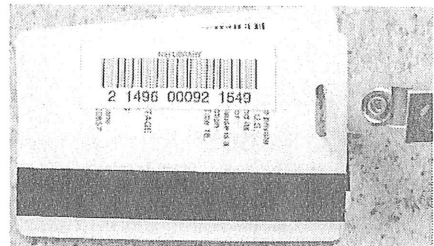


図2 NIH 図書館のパス

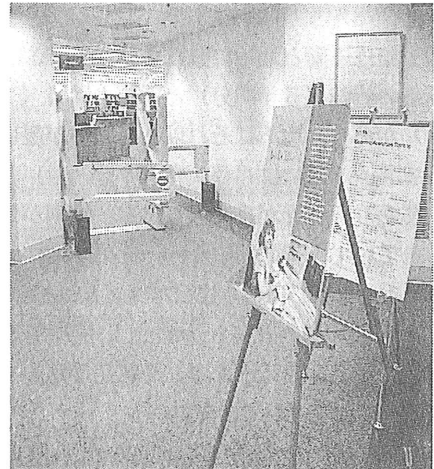


図3 図書館の入口

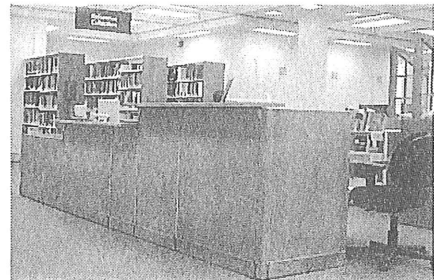


図4 カウンター

IHATA Atsushi

Laboratory of Retrovirus Research
Office of Vaccines Research and Review
Division of Viral Products FDA/CBER
ihata@hma.att.ne.jp

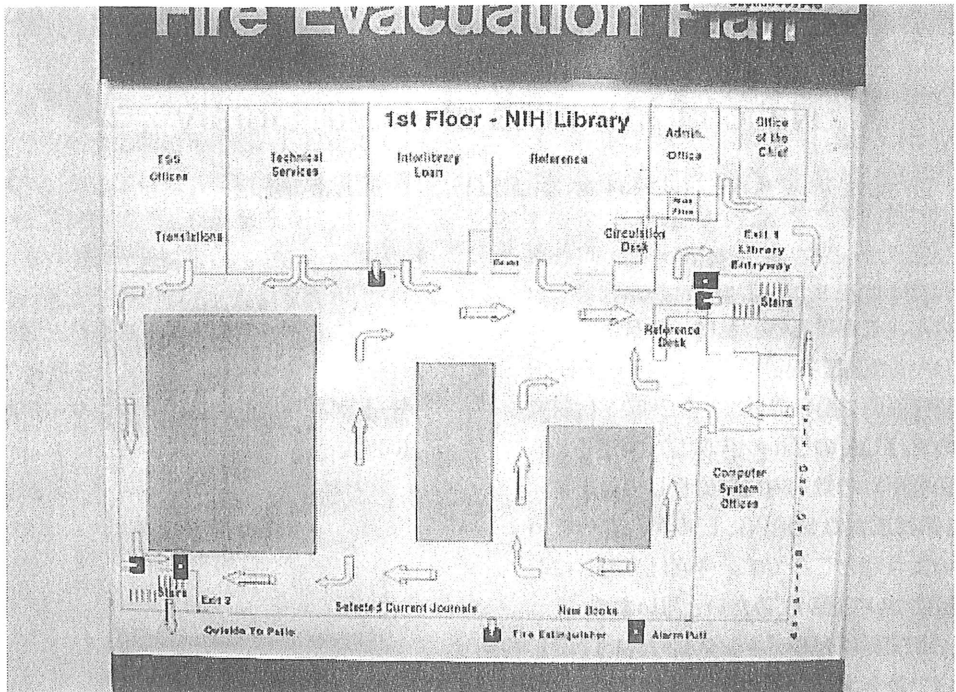


図5 1階フロア見取り図

図書館は1階と地下に分けられており、1階に新着の雑誌（5年間分）と新着の図書（1週間分）があり、地下にそれ以外の図書が置いてあります。1階にはベランダ（パティオ）が隣接しており、日光が良く入ります。絵画が壁に飾られていて書架の間隔が広いので、本に圧倒されるような感じはありません（図5、図6）。また、書架のほかに、Internetに接続できるパソコンが15台ほどあり、それを使用して文献検索をすることもできます。

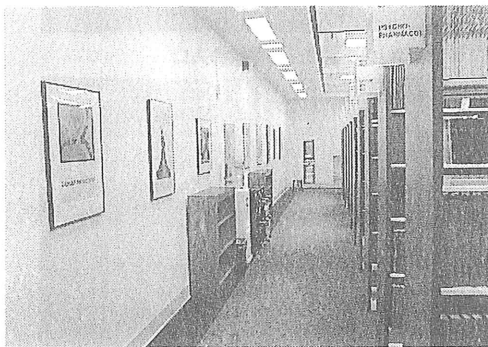


図6 1階フロア 絵画が飾られる壁

地下はそれに比べるとかなり殺風景な感じがします。本また本が並んでおり、書架の棚を利用した机が幾つかならんでいます。蔵書数ははっきりわかりませんが、かなりなものだと思います（図7、図8）。

図書を探すときにはまず、備え付けのパソコンで題名などを検索します。すると題名の後にコード番号がついているので、そのコード番号を書架にある番号と照らし合わせながら探していくことになります。新着から1週間以上経過

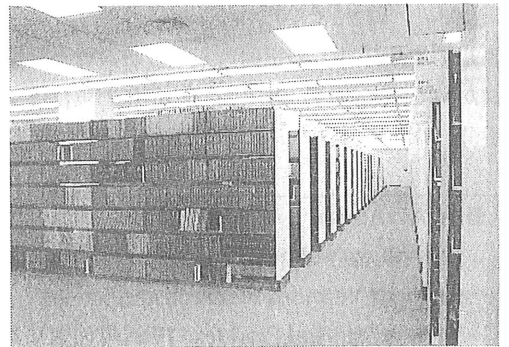


図7 地下の書庫(1)

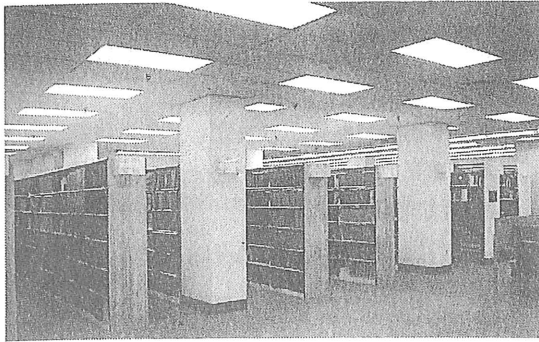


図8 地下の倉庫 (2)

した図書は借りることができます。期限は大体2週間から4週間です。図書を借りるためにはまず登録が必要で、登録するとバーコードがもらえて、図書を借りることができます。利用時間は朝7時45分から夜8時まで。土日も開いています。

以上のことからするとかなり便利そうに思えるのですが、利用している人はまばらで図書館全体でも30人ほどしか人を見かけません。また利用しているのは主に学生が多いように思い

ました。利用者の少ない理由にはLANを利用したIntranetの活用があげられます。研究者は1人1台パソコンが支給されるのですが、これはLANを介してつながっており、NIHLibraryにアクセスすることができます(図8)。このホームページからはNIHLibraryが定期購読している全ての最新の雑誌をパスワード無しで読むことができますし、論文をそこからプリントアウトすることもできます。使用してみた感じとしては雑誌が目の前にあるのと同様のことが全て自分のパソコン上でできます。

実際に図書館を利用する場合としては、図書の貸し出しや返却に限られるのですが、これもIntranet上で借りたり延滞の手続きをすることができますので、図書を取りにいったり返したりという時だけ図書館に行くことになります。ある意味ではNIH全体がNetを利用した大きな図書館になっているという風に考えることもできるでしょう。使用する側としては非常に便利だと思います。簡単ではありますが以上で報告を終わらせていただきます。

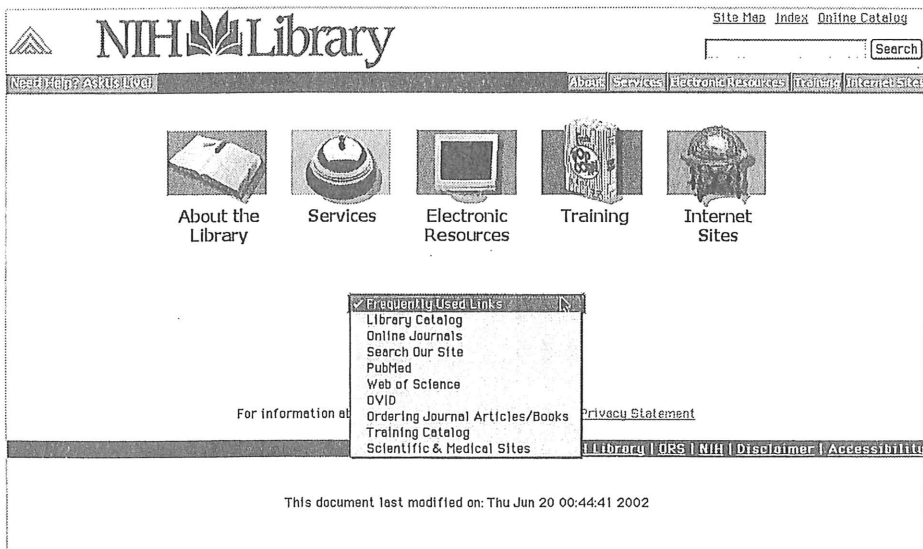


図8 NIH Library ホームページ